

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	平成29年度第3回河内長野市都市計画審議会 立地適正化計画策定部会
2 開催日時	平成30年1月11日(木) 午後2時00分から
3 開催場所	河内長野市役所 3階 301東会議室
4 会議の概要	次の案件について検討を行った。  (1) 課題・ターゲット・施策について  (2) 誘導区域の考え方について  (3) 誘導施設について
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0名
7 問い合わせ先	(担当課名) 都市づくり部都市創生課 (内線545)
8 その他	

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

平成29年度第3回河内長野市都市計画審議会 立地適正化計画策定部会

日時：平成30年1月11日（木）

午後2時～午後4時

場所：河内長野市役所 301会議室

次 第

1. 開会
2. 副市長あいさつ
3. 議題
  - (1) 課題・ターゲット・施策について
  - (2) 誘導区域の考え方について
  - (3) 誘導施設について
4. その他
5. 閉会

出席者

欠席者

青木 淳英

伊勢 昇

井戸 清明

嘉名 光市

水野 優子

なし

## 1. 開会

委員 5 名の内、出席者 5 名

2 分の 1 以上の出席により会議は成立

## 2. 副市長あいさつ

副市長 : 前回の第 2 回部会では、主に都市機能誘導区域、居住誘導区域の設定方針について多くのご意見をいただいた。本日は、いただいたご意見をもとに見直した誘導区域の設定方針に基づく具体的な区域案や誘導施設についてご意見をいただきたいと考えている。本日、ご議論いただく内容は、立地適正化計画の核となる非常に重要な部分であり、また様々な考え方ができる部分でもあるので、委員の皆さまには、幅広い視点から、忌憚ないご意見をお願いしたい。

## 3. 議事

### (1) 課題・ターゲット・施策について

#### 【質疑応答】

嘉名委員 : 立地適正化計画の章立てはどのように考えているのか。前回の部会で、ターゲットを明確にした方がよいという議論はあったが、「課題・ターゲット・施策」では若年世代と高齢世代を分けて示しており、施策を別々に展開していくのかと捉えられる。若年世代、高齢世代をターゲットに示すことについてはよいが、施策を並立的に展開するのはあまりよくないと思う。ターゲットというよりはコンセプトそのものであるのか、立地適正化計画には様々な面があるが若年世代、高齢世代の視点で見ればこのように整理できるという解釈すればよいのか、整理する必要がある。

事務局 : 例えば 35 歳前後の若年世代、75 歳以上の高齢世代をターゲットとして施策を展開するという意図で「課題・ターゲット・施策」を作成している。

嘉名委員 : 立地適正化計画の中でどう位置付けるかということと、ターゲットという言葉が適切であるかという点を一度整理していただきたい。

伊勢委員 : 施策に挙げられている公共交通ネットワークの確立や、安心して暮らし続けられる住環境は、若年世代、高齢世代に共通する内容である。分類としては若年世代、高齢世代、共通する内容の 3 つがあるのではないか。公共交通網形成計画の検討においても、若年世代の自動車利用を公共交通に代えてもらう、高齢

世代には外出機会を増やして公共交通を利用してもらうなど、ターゲットを示している。このように整理するのであれば、共通の施策というまとめ方で示してはどうか。

水野委員：施策、計画の効果・目標が二本立てで示されているが、例えば、拠点周辺の住宅供給の施策であれば、施策の中身でターゲットを若年世代、高齢世代向けと分けることも可能である。章立て全体を分けなくても、施策の中でターゲットを示す方法もあるのではないか。一つの施策について、中身を書き込んでいくイメージでよいと考える。

嘉名委員：わかりやすく示されていると思うが、2つの柱の間に溝ができていないかという感じがしてしまう。もう少し、書き方に工夫が必要とを感じる。

井上委員：世代を分けるのではなく、高齢者が子どもをケアするような仕組み、あるいは若年層が高齢者をケアする仕組みも必要と考える。また、現在の子どもたちが育ったときにどういったまちであるべきかという視点が不足しているように感じる。魅力ある仕事があり、子育てがしやすい環境があれば、子どもと長く過ごすことができ、市から出て行く人も少なくなるのではないか。

嘉名委員：前回の議論にもあったが、働く場があることが重要であるという点を計画にもうまく組み込んでいただきたい。もうひとつは、若年世代と高齢世代の間に溝があるのではなく、両者がつながっていることが重要というご指摘であった。そのあたりも踏まえ、少し改善していただきたい。富山市ではコンパクトシティに取り組んでいるが、「孫とお出かけ支援事業」という事業をしている。孫と祖父母と一緒に訪れると公共施設が無料で利用できるという制度である。外出機会を増やすという趣旨で、若年世代向けの施策と高齢世代向けの施策をうまくミックスさせている例である。

## (2) 誘導区域の考え方について

### 【質疑応答】

水野委員：誘導区域の望ましい規模について、財政面から見た時に、将来的に維持管理にかけられる費用が半減することになっている。誘導区域の考え方では、居住誘導区域である「まちなか居住集積区域」以外の区域においても基本的に「現状を維持する」という方針となっており、施設総量を減らすとは記述されていない。施設の集積を増やすところと、維持するところという記述になっており、

施設数を半減させるという必要があるという試算内容と矛盾が生じるのではないか。一方で、人口密度の面からは、整合が図られていると感じる。

事務局：今回、居住に関する区域を4つに分類しているが、法律上は、居住誘導区域とそれ以外という2つであり、居住誘導区域の中は充実させ、それ以外は密度が下がっていくことも仕方ないという考え方が基本となる。ただし、本市の特徴として、郊外に住環境やインフラが整った開発団地があり、多くの居住者がいることから「ゆとり住環境保全区域」を設定し、住環境を維持する方針を示している。住環境を維持することが現状をそのまま維持することかというところではない。例えば、公共交通の面で、居住誘導区域の中ではバス路線をしっかり維持するが、ゆとり住環境保全区域では、路線バス以外の交通手段により、ニーズに合った形で拠点までのアクセスを維持するということも考えられる。そのような取り組みにより維持管理費用を下げることも考えられる。

嘉名委員：公共施設の総量をトータルで半減させるということで数字上は合うが、実際に減らせるのか。また、まちなか居住集積区域とゆとり住環境保全区域を含めると半減していないという点が気になる。実際には、開発団地で人が減れば、学校の集約を進めるということも現実的にあり得る。財政面の検討で何となく数字的に合っていると思うが、集約・効率化で人口減少に対応できるのか、あるいは市街地を撤退していかないと対応できないのか、最低限の押さえをしておく必要がある。そこで辻褄があっていかないとさらに区域を絞る必要があるという議論が出てくる。

水野委員：今後の試算と計画の整合性を図るためには、「維持していく」という表現だけでなく、施設を「集約していく」という表現も検討する必要があると思う。

嘉名委員：交通や公共施設などの集約に関しては、都市計画の部局だけでは判断できない部分もあるかと思うので、部局間で調整しながら、検討していただきたい。

嘉名委員：区域設定については違和感ないということによろしいか。また、各誘導区域について、現状と照らし合わせておかしいところはないか。基幹公共交通軸の設定についても、ご意見をいただきたい。

井戸委員：平成52年になった時に河内長野市に残って事業をする価値があるか。民間に投資してもらえるような場所にする必要がある。郊外型の住宅であれば、2、3区画を1つにまとめて子育てがしやすいゆとりある住宅地にすることも考えられる。郊外の大手スーパーが撤退しないかということも気になる。

嘉名委員：都市計画マスタープランでは産業にも踏み込んだ内容になっているが、立地適正化計画でどこまで書けるのかが難しいところではある。産業が近接していることが非常に重要であるという視点からすると、計画のゾーニングには表せないとしても、産業が集積するエリアを都市機能誘導区域、居住誘導区域に近いエリアで確保するという記載を書き込むことができればよい。

伊勢委員：基幹公共交通軸の設定は、学術論文を参照しても定義は決まっていない。その中で、高頻度で設定されているものを見ると、平日の10時～16時に1時間当たり10本以上運航している路線が2キロ以上連続している路線というのが最も厳しい設定である。設定の考え方としては、現状のサービスレベルを元に設定する方法と、人口や都市機能の集積状況から、居住誘導区域と都市機能誘導区域を設定し、誘導区域に合わせて人の移動が想定される路線を基幹公共交通軸として設定する方法がある。立地適正化計画の手引きでは、現状の公共交通路線から設定する方法が示されているが、この考え方では、まちが大きく変化した時に現在設定されていない路線を基幹公共交通軸に設定できない。河内長野市においては、駅周辺に誘導区域を設けるので、現状の路線を元にした設定方法で問題ないと考えているが、先に述べたような問題もあるので、個人的には人口と都市ストックをもとに設定した方がよいのではないかと考える。基幹公共交通軸については、現状では南花台から大矢船のサービスレベルは同じであるが、大矢船の将来の状況や人口集積から、南花台より先を基幹公共交通軸から外すことについては説明できるものと考えている。もし、バス需要予測をベースに基幹公共交通軸の設定を検討するのであれば、資料集の6ページに示されているパーソントリップ調査を用いた考え方では、バス需要の単位が市全体の平均値となるので、2006年に町丁目レベルでバスの利用頻度を調査した資料を用いて算出すれば、地域特性を反映したより精緻な需要予測が可能である。

事務局：市内でも居住している地域によってバス利用頻度はかなり異なると考えるので、結果が変わるかどうかは別として、説得力のある説明とするためにも資料をあたってみることとする。

嘉名委員：基幹公共交通軸として設定する路線以外はどうなるのかを示す必要がある。基幹公共交通軸以外のバス路線が成り立たないと捉えられかねない。バス路線をやめるというシナリオではないので、市内のバス路線をどのように存続させていくのか。

事務局：人口減少により、このままいけば、バス便数が減っていくが、基幹公共交通軸は、利便性を低下させないために、バス便数を維持していく路線として設定するものである。他の路線については、人口が減少する中で便数が減っていくこともやむを得ないが、高齢社会で公共交通の移動手段としての重要性が増していく中で、どのように減らしていけばよいのかということを経済交通網形成計画で検討している。バス路線が維持できなくなる路線については、地域のニーズに合わせた交通手段ということで、例えばコミュニティバス、デマンドバスなど別の手段についても検討する。

嘉名委員：基幹公共交通軸以外は維持しないというような誤解をされないように、基幹公共交通軸の位置付けをしっかりと説明する必要がある。

青木委員：訪問介護や訪問看護の視点では、一定区域に居住を集約する方が、効率的にサービスを提供できる。特に今後は、24時間対応のサービスとなっていくので、より一層、望ましいと考える。ただし、訪問介護サービス事業所は小規模であり、少ない居住者数であっても事業が成り立つので、居住誘導区域外のゆとり住環境保全区域にも、事業所が立地することが考えられる。福祉や医療の視点では、拠点の周辺にこういった集合住宅を誘導していくのかということが重要となる。例えば、高齢者向けと子育て世帯と一緒に住める住宅が集まっており、歩いて様々な施設が利用できれば、高齢者、子育て世帯が拠点周辺に集まってくるのではないかと考える。

嘉名委員：アウトプットの際には、各区域のイメージを絵なども用いて示せばわかりやすいかもしれない。高齢世代と子育て世代の関係についても何かイメージがあればわかりやすい。誘導区域は、概ねこの方向でよいと考えるが、誘導区域を設定する拠点から外れる滝谷駅、美加の台駅、汐ノ宮駅には留意する必要がある。地域の方も関心が高く、誘導区域を設定しない理由を説明する必要がある。汐ノ宮駅は都市機能誘導区域を誘導する余地がないかもしれないが、美加の台駅はどう説明するか。滝谷駅は富田林市に位置するが、市域がつながっていると考えれば、誘導区域になっていてもおかしくはない。各駅周辺がどういう位置付けであるのか、特に例外的な位置付けとなっている駅については説明をしっかりとしてほしい。個人的には滝谷駅の周辺は、病院もあり、誘導区域に設定してもよいと考える。

事務局：もともと滝谷駅が市外に立地しているために誘導区域を外したという意図はない。第2回部会の資料では、汐ノ宮駅、美加の台駅も拠点候補地として、施設立地状況を確認しており、汐ノ宮駅は集積しておらず、集積の余地がないとい

うこと、美加の台駅は市街化調整区域に位置し、美加の台団地は大部分が第一種低層住居専用地域であり、近隣商業地域の面積が小さいため、新たな都市機能の立地が難しいことから都市機能誘導区域を設定していない。滝谷駅は同様の分析をしていないが、河内長野駅、千代田駅、三日市町駅と同等の都市機能集積がないと判断した。また、居住誘導区域の連担性を考慮した際に、間に工業系用途地域があるので、区域設定がしづらいという点がある。

### (3) 誘導施設について

#### 【質疑応答】

嘉名委員：府立長野北高校は閉校にならないようにすることが基本であるが、仮に閉校された場合、有効活用の方法を考える必要がある。あるいは売却されて別の利用となるかもしれないが、将来を見据えて、高校は都市機能誘導区域に入れるのか。

事務局：区域図をご覧くださいと、千代田駅周辺の都市機能誘導区域は半径500メートルを基準としながらも、大阪南医療センターと長野北高校を区域に含んでいる。高校存続の要望もあるが、難しいことも考えられるので、閉校になった場合には、単なる住宅地にするのではなく、医療センターとの連携も視野に入れ、都市機能を誘導するべきと考える。誘導施設については、計画のとりまとめ段階までに方向性が見えてくれば、反映できるものと考えている。

嘉名委員：誘導施設の設定は河内長野駅周辺では私立小学校中学校、大学もあるが、千代田駅周辺は専修学校のみとなっている。駅から立地もよくまとまった土地があるので、学校や大学の誘致する可能性があるのではないか。

事務局：長野北高校は一旦募集停止が検討されている段階で、閉校が決まったわけではないので、具体的な誘致ができる状況ではない。ただし、大阪南医療センターが立地しているので、何か連携ができればと考えている。

嘉名委員：誘導区域の設定について、大きな違和感はないということでしょうか。

事務局：大阪南医療センターが地域の医療の核としての役割を果たすという方向で働きかけをしていただいているので、立地適正化計画を夏から秋にかけてとりまとめる中で、状況を踏まえて、まだ記載できていない内容を書き込み、拠点毎に

方向性を明確にできればと考えている。

嘉名委員：認定こども園、保育園、幼稚園は、現実的には全ての施設が維持できるかというところもあるが、誘導施設に位置付けているのは、駅前などに立地する小規模保育園のようなイメージか。

事務局：担当部局へのヒアリングによると、現時点では、保育園は、堺市方面に勤める親が車で送迎しやすい市北部への立地のニーズが多く、駐車スペースが少ない駅前のニーズはそれほど高くない。ただし、市南部の施設は経営的につらくなっているため、長い目でみると駅周辺への誘導が必要と考え、誘導施設に位置付けている。

嘉名委員：認定こども園、保育園は、住宅との関係が深いので、高度利用できる集合住宅の供給とあわせて誘導することが効果的と考える。

嘉名委員：他に原案に対するご意見、部会全体に対するご意見がなければ、本日の議論は以上とさせていただきます。

#### 4. その他

事務局：今年度の部会は今回をもちまして最終とさせていただきます。次回は、来年度以降の開催を予定しているため、あらかじめ日程調整の上、ご案内させていただきます。

#### 5. 閉会